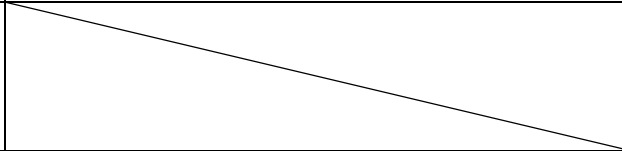


高砂市子ども・子育て・若者会議 第1回子ども・子育て部会

議題に対するご意見と市の考え方について

議題1 アンケート調査結果についてのご意見と市の考え方

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
1	アンケート対象者を高砂市 HP 及び高砂市公式アプリの閲覧者とした理由を知りたい。	副食費無償化対象者以外の幅広い年齢層の市民の意見を聞くため、市 HP と市公式アプリによりアンケートを実施しました。
2	子育て家庭対象のみの結果を教えてください。	回答者のほとんどが子育て家庭の方のため、子育て家庭のみでの分析の結果、どの間についても全体に比べて1%程度の差がある結果となっています。
3	令和元年10月からの子育て支援事業(保育料無償化、給食費(副食費)の無償化等)が実施され、その結果「充実している」割合が多いことはよかった。	
4	今後の施策として、小・中の給食費の無償化が特に高かったことは、現在、働く女性が多くなり、社会的に子どもの一定の栄養を保障してほしいという希望は保護者の切実な思いなのだと感じる。	小・中学校の給食費無償化については、財源の問題により実施が難しいですが、今後も高砂市学校給食摂取基準に基づき、安心・安全な給食を提供します。
5	子育て以外の分野の取り組みでは、安心して暮らせる環境づくり(歩道・公園など)が希望する割合が高かったことから、今後、高砂市の安心・安全な環境づくりを探り、危険なところはどこなのかなどを探っていくことが必要だと思う。	道路においては、道路管理をする職員によるパトロールやその他の職員及び市民からの情報提供により、危険箇所の把握に努めています。 また、公園遊具におきましても同様に、公園の維持管理を委託しております施設利用振興財団により、年3回の安全点検を実施しており、点検結果により修繕等の対応を実地しています。 今後も引き続き、情報収集を行い、危険箇所の把握とその解消に努めていきます。
6	充実したと感じる施策に「中学3年生までの医療費を無償とする乳幼児等・こども医療助成制度」が50%と最も多く、今後希望するものは「医療費助成制度の範囲拡充」が17%と第3位になっているが、中学校3年生までは医療費無償なので、どの年齢までの医療費拡充を希望されているのか、アンケート調査の結果でわかるのであれば教えてください。	今回のアンケートでは、医療費助成の拡充希望対象年齢は聞いていないためわかりません。

7	<p>医療費の無償化は、受診する側の不要な受診、医療機関側での不要な検査・投薬に繋がっていることが懸念される。子育て世代への援助は最優先されるべきだが、その援助は不要不急等の受診を抑制する（社会保障費を軽減する）、枯渇が懸念される小児救急医療を守る観点から、時間外や休日の受診に関する助成は省いていく時代になったと感じる。</p>	<p>医療費の無償化による不要な受診等の懸念事項であるが、市としては、本件については今まで以上に周知・啓発等を行わなければならないと考えています。しかし、子育て世代への支援と位置づけ、所得制限は撤廃しており、保護者の負担軽減及び受診しやすさによる保護者の不安が軽減されるという観点からいえば所得の有無に関係なく、公平な助成制度であると考えています。</p> <p>休日や時間外等にかかりつけ医が対応できないなどのケースもあるため継続的に助成をする方針です。</p>
8	<p>給食費の無償化については、特に他市から転入されてきた方が驚かれています。高砂市独自の事業であることを改めて感じる。</p>	
9	<p>医療費の無償化の年齢を 18 歳まで引き上げてほしい。</p>	<p>現在、通院・入院については中学3年生まで窓口負担なしで助成をしており、入院については高校生世代の子を対象に市へ申請することで食事代を除く保険診療分を還付しています。</p>
10	<p>こども医療費助成制度は、とてもいいと思う。病院で診察してもらうことで、親子ともに安心できる。</p> <p>また、5歳児健康相談は、小児科の先生によく見ていただけるので今後も続けてほしい。</p>	<p>財政面を考慮しながらではありますが、こども医療費助成制度は、引き続き継続する方向で考えています。</p> <p>また、スムーズにこどもが就学できるよう支援する5歳児相談を今後も継続していきます。</p>
11	<p>給食費（副食費）の無償化については、お弁当の園（荒井幼稚園）や認可外の園は対象外のため、もう少し範囲を広げてほしい。</p>	<p>補助の対象を公立・民間園に限定したのは、市の栄養士が食育の観点から考えたメニューや食材を統一して使用しているためです。また幼稚園や認可外園など弁当の園については、金額の設定等が難しいことから補助対象としていません。</p>
12	<p>対象者の約半数が未就学児であり、アンケートの結果も未就学児をもつ対象者の傾向が強くなると思われるので、対象者の割合を踏まえた分析も必要ではないか。</p>	<p>今後、未就園児だけでなくその他の対象者の割合もふまえて、各区分に応じた分析を行っていきます。</p>
13	<p>自由記述以外の少数回答の項目に対しては、今後どのように取り組むのか。（さらなる充実を図るのか、施策自体を見直すのか。）</p>	<p>今回のアンケートの少数回答の意見についても、将来的な必要性をふまえ、事業の充実や見直しを検討していきます。</p>

議題2 病児保育室新規開設についてのご意見と市の考え方

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
1	<p>病児保育室が増えたことは素晴らしいことと思う。専門性のある医師や看護師によって支援いただくことで保護者は安心して預けることができる。また医師や看護師等と保育者が連携することで子育て支援の協力体制ができ、子どもの健康を維持・増進につながるので、このような取り組みがさらに充実することが重要だと思う。</p>	
2	<p>病児保育室「だっこ」では、水痘、流行性耳下腺炎の感染症にかかっている子どもを預かってもらえるが、今後、新型コロナウイルスにかかった子どもは預かってもらえるのか。</p>	<p>現時点では、新型コロナウイルス感染症などの新興感染症にかかった子どもは利用できません。</p>
3	<p>近隣の加古川市・稲美町・播磨町・明石市・姫路市と比べて、高砂市は病児保育事業に関して充実しており、市内2箇所目となる施設の開設を伴いさらに充実した。この状況を行政サイト等で宣伝し、「子育てするなら高砂がおすすめ」とアピールが望まれる。</p>	<p>周知方法としては、高砂市ホームページや広報たかさごへの掲載や、高砂市公式 Facebook やバンバンラジオでの周知を行っています。また、各保育施設にパンフレットを配布するなど、積極的な広報活動を今後も続けていきます。</p>
4	<p>働く保護者にとって大変助かる。どうしても病気の子どもの世話をすることができない、だれも見ってくれる人がいないとなったとき本当にありがたいと利用されている方から聞いている。</p>	
5	<p>どの程度の利用があるのか。また、認知度が低いのではないか。</p>	<p>「だっこ」がオープンした令和2年11月から令和3年2月末時点まで、利用人数は14人となっています。多くの方が利用していただけるよう、さらなる周知に努めていきます。</p>
6	<p>こばやし小児科を加え、市内2箇所あるのは心強い。働く両親や兄弟がいる場合などとても助かると思う。</p>	

議題3 高砂市子ども食堂認証事業についてのご意見と市の考え方

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
1	子ども食堂を利用する背景や利用数などの実態が知りたい。	<p>子どもの貧困対策として始まった子ども食堂ですが、現在では地域の方々との触れ合いや子どもの居場所づくりという目的へ変化しており、地域の子もたちが楽しんで食事をする場となっています。</p> <p>各子ども食堂によって異なりますが、定員数は概ね10～30人です。</p>
2	子ども食堂が食の提供の場だけでなく、子ども達が集まって勉強をしたりイベントをしたり、大人も集まって活動を共にする地域の施設や拠点となっていくことを望んでいる。	<p>子ども食堂によっては食事の提供だけでなく、勉強や交流を図る遊び(ボードゲームなど)、子どもへのレクリエーションなどを実施しています。子どもが地域の人々とふれあい、豊かな人間性及び社会性を身に付けることができる場所となるよう、今後も支援していきます。</p>
3	<p>現在、きっず・きっちんネットワークでは、新しく子ども食堂を立ち上げるための勉強会、立ち上げへの支援(金銭的、事務的、子どもの扱い等)、現存の子ども食堂のネットワーク構築、自走できていない子ども食堂の会計、高砂市ふるさと納税の返礼品である子ども食堂への寄附のとりまとめ、コープ食材の受け取りと配布を行っている。</p> <p>来年度は、未来戦略推進活動支援補助金は三年経過のため使えない。子ども食堂の活動支援を続けていくためには、コーディネーターが必要だと思う。</p>	<p>子ども食堂の新規立ち上げや安定した実施を支えるため、コーディネーターや運営費の補助について必要性を感じているところです。</p> <p>今後、子ども食堂実施団体や関係機関と協議し、子ども食堂の普及・定着を図っていきます。</p>
4	「子ども食堂」と聞いただけでは、イメージがわかなかったが、一覧表に示していただきよくわかった。認証されることにより、市民への周知ができるというメリットがあり、よいと思う。	
5	<p>どういう時に利用するのかよくわからない。</p>	<p>「子ども食堂」は、子どもの居場所づくりを目的に、地域の子もやその保護者等に対し、無料又は低料金による食事等の提供を行い、子どもが地域の人々とふれあい、豊かな人間性及び社会性を身に付けることができる場所として、開催しています。</p> <p>子ども食堂認証事業を受けた団体は、子ども食堂の開催日時など市民への広報や食材提供、公民館などの公共施設使用料の減免を受けることができます。</p>
6	<p>市内にたくさんあることを知らなかった。広報、HP 以外にももっと周知をした方がいい。また、フードドライブも民間はコープ以外わからなかったので、他の場所でも行えば気軽にできると思う。</p>	<p>今後も、多くの市民の方に周知できるよう積極的な広報活動を行っていきます。</p> <p>市主催のフードドライブについては美化センターが実施していることから、今後も連携を図り、事業の拡大ができるよう努めます。</p>

7	レクリエーションなども行われているので、子どもとレクリエーションできるボランティアの募集を行ってみてはどうか。	子ども食堂実施団体や社会福祉協議会等と連携を図りながら、検討していきます。
---	---------------------------------------------------------	---------------------------------------

その他のご意見と市の考え方

番号	ご意見	ご意見に対する考え方
1	<p>私立の保育園・こども園にも子どもの安全に対するマニュアル等は整備されているのか。(例えば、首から上のけがの場合、連絡はいつ保護者にするのか等)</p>	<p>私立保育所・認定こども園ともに、事故等が発生した場合の対応等が記載された事故の発生の防止のためのマニュアルを整備しています。</p>
2	<p>公立園との関係がほぼない状況になっている。コロナウイルス感染症により、親同士、子ども同士のつながりや遊び場がとても減っている。感染対策を徹底したうえで子どもたちの体験、遊びの場を増やしてほしい。</p> <p>また、子育て支援センターのつどいの広場なども参加人数、回数など何とか機会を増やしてほしい。出かけるチャンスが減ると、他の親子や先生と話す機会、相談する機会が減り、悩んだり一人で抱え込んだりする家庭が増えるのではと思う。</p>	<p>現在公立園での園庭開放等は実施していませんが、新型コロナウイルスの感染状況等をみながら子どもたちの安全を第一に考え、今後の実施について検討していきたいと考えています。</p> <p>子育て支援センター事業については、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、参加定員を減らすなどの方法で事業を実施しています。子育て家庭の不安や悩みを相談できる場として、少しでも多く事業が開催できるよう、感染症対策を徹底し、今後も事業に取り組んでいきます。</p>
3	<p>子どもたちが、たくさんの経験・体験の場をもち、笑顔で成長してほしい。コロナ禍で大人も子どももいろいろと我慢をし、苦労も多いが、少しでも前に進めるよう、子育てサークルの場で協力していきたいと思う。</p>	